PART2　仮定形

一　仮定形

① 若～ / 如～ ＝**もシ～バ**／（もし～ならば）

※下から返らない

（例）**若然**（しかラバ）、…　〔　　　　然らば、…〕（　　　　　）

> ＊下から返る場合は、助動詞「若（ごとシ）・如（ごとシ）」などの用法。
>
> （例）若レ水。〔　　　　〕（　　　　　）

② **苟～＝いやしクモ～バ**／（**もしも～ならば**・かりにも～）

＊①より強い仮定

（例）**苟遭**（ハバ）二其（ノ）時（ニ）一、…　〔　　其の時に遭はば、…〕

（しかるべき時世にめぐり会うなら、…）

③

縦～
仮令～ ＝**たとヒ～トモ**／（たとえ～としても）

（例）

仮令我保レ寿ヲ(ツコト)百年、(ナリトモ)…　〔　　　我寿を保つこと百年なり　　　〕

（　　私が寿命を百年保つことができた　　）

縦江東ノ父兄憐レミテ而王レ我ヲ(トストモ)、…　〔　江東の父兄憐れみて我を王とす　〕

（　江東の父兄〔＝農村の指導者層〕が同情して、私を王とした　）

④

雖～＝～トいへどモ／（**たとえ～としても・～だけれども**）

（例）

雖レ賢(ナリト)(モ)…　〔賢なりと雖も…〕（たとえ賢者であっても…／賢者であるけれど…）

其レ或イハ継グレ周ヲ者、**雖**ニ百世(ひゃくせい)一可レキ知也。

注　其レ或イハ…もし仮に。

百世…現在（＝周の時代）より後の百の王朝のこと。

〔其れ或いは周を継ぐ者、百世と雖も知るべきなり。〕

（もし仮に周を継ぐ王朝があるとしたら、百世知ることができるのである。）

苟私意蔽固(へいこ)ナレバ、則チ**雖**レ有リト レ過チ、而モ(しかモ)不レ能レ知ルコト レ之ヲ。

〔　私意蔽固なれば、則ち過ち有りと　　、而も之を知ること　　〕

（　自分勝手な心で道理に暗く頑固であるならば、過ちを犯した　　　これを知ることが　　）

鶴ノ脛(はぎ)ハ**雖**レ長、断タバ レ之ヲ則チ悲シマン。

〔鶴の脛は　　、之を断たば則ち悲しまん。〕

（鶴のすねは　　、これを（短くしてあげようと）切ったならかえって悲しむだろう。）

⑤

使メバ二NV一、…＝N　Vしメバ、…／（もしNがVするならば、…）

（例）使メバ二公ヲシテ有ラ レ知ル一、…　〔公をして知る有らしめば、…〕

（　　　）

⑥

微(な)カリセバ二〜一、…＝〜なカリセバ、…／（〜がなかったならば、…）

（例）**微**カリセバ二斯ノ人一、…　〔斯の人　　〕（　　　）

問一　次の文の傍線部ａの読みを送り仮名も含めて平仮名で示せ。また傍線部ｂをすべて平仮名で書き下し文にせよ（現代仮名遣いでよい）。

「[a]若必ズ禁ジテ、其レ不レバレ変ゼ、則チ[b]雖二造物（ぞうぶつ）一有レ所レ不レ能。」

a ＝

b ＝

第14講　PART2　確認問題

①　「苟能ク弭(や)メレ兵ヲ、…」の傍線部の、送り仮名を含めた読み方として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　いづくんぞ　　イ　いやしくも　　ウ　しかも　　エ　けだし

②　「雖二貧賤ノ廝養(しやう)一、…」の傍線部の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　であれば　　イ　であっても　　ウ　だけではなく　　エ　よりはむしろ

③　現代語訳の空欄にあてはまる言葉として最も適当なものを、次の中から選べ。

微カリセバ二管仲一、吾其レ被リレ髪ヲ左ニセンレ衽ヲ矣。

（［　　　］、私の髪は乱れ、着物もまともには着ていなかっただろう。）

ア　管仲がいなかったならば　　イ　これが管仲であったならば

ウ　管仲が一緒にいたならば　　エ　管仲と同じでなかったならば

④ 空欄にあてはまる字として最も適当なものを、次の中から選べ。

□我レ不レ往(ゆ)カトモ　子寧ゾ不ルレ来タラ。

ア 苟　イ 若　ウ 雖　エ 縦　オ 微

⑤ 仮定の用法を含まないものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア 使メバ二狗ヲシテ 用ヰ一レ之ヲ、…

イ 将軍若シ 遇(あ)ハバ二真ノ虎ニ一、…

ウ 如シ二時雨ノ 降ルガ一。

エ 縦ヒ江東(かうとう)ノ 父兄憐ミテ 而王トストモレ 我ヲ、…

第14講　PART2　解答

一

①〔**若し**然らば、…〕（もしそうならば、…）
〔水のごとし。〕（水のようだ。）

②〔**苟くも**其の時に遭はば、…〕（**かりにも**しかるべき時世にめぐり会うなら、…）

③〔**仮令ひ**我寿を保つこと百年なり**とも**、…〕（**たとえ**私が寿命を百年保つことができた**としても**、…）
〔**縦ひ**江東の父兄憐れみて我を王とす**とも**、…〕（**たとえ**江東の父兄が同情して、私を王とした**としても**、…）

④〔其れ或いは周を継ぐ者、百世**と雖も**知るべきなり。〕
（もし仮に周を継ぐ王朝があるとしたら、**たとえ現在より後の百の王朝のことだとしても**知ることができるのである。）
〔**苟くも**私意蔽固なれば、則ち過ち有りと**雖も**、而も之を知ること**能はず**。〕
（**もし**自分勝手な心で道理に暗く頑固であるならば、過ちを犯した**としても**、これを知ることが**できない**。）
〔鶴の脛は**長しと雖も**、之を断たば則ち悲しまん。〕（鶴のすねは**長いけれども**、これを〜）

⑤〔もし公が知ったならば、…〕

⑥〔斯の人**微かりせば**、…〕（この人がいなかったならば、…）

問一

a　もし

b　ぞうぶつといえどもあたわざるところあり。

第14講　PART2　確認問題　解答

〔解説〕

① 「苟」は「いやしクモ」と読み、「もし〜ならば」の意味。よって、イが正解。

② 「雖」は「いへどモ」と読み、逆接を表す。古文とは違い、仮定・確定のどちらの意味もあるので、文脈判断が必要であるが、この場合は逆接の選択肢がイのみ。よって、イが正解。

③ 「微〜」は、「〜がなかったならば」と訳す。よって、アが正解。

④ 「不」の送り仮名に「〜トモ」とある点に着目。仮定を表す表現で、「〜とも」につながるのは、「縦」。よって、エが正解。

⑤ アは「使メバ$_{二}$NヲシテV$_{一}$、…（＝もしNにVさせるならば、…）」の形をとる仮定の用法。イとウの「若〜」と「如〜」については、下から返る場合「ごとシ」と読む。送り仮名も「もシ」と「ごとシ」では同じになるので注意する。ここでは、ウが下から返っている。エは「たとヒ〜トモ」と読む仮定の用法。よって、ウが正解。

〔解答〕

① イ　② イ　③ ア　④ エ　⑤ ウ